

【出題の趣旨】

自分の考えが読み手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えて書くことができるかどうかをみる。

【千葉県の課題と関連する問題例】 3

【辞典の記述】

ほろほろ ① 涙や葉・花びらといった小さく軽いものが、音もなく続けてこぼれ落ちる様子。② 山鳥・雉・鳩といった鳥の鳴く声。

ぼろぼろ ① 大粒の涙をこぼす様子。かたまりや粒などが、続けてこぼれ落ちたり崩れたりする様子。② 物がひどく破れたり崩れたりしている様子。

ぼろぼろ ① 涙や小さい粒状のものなどが、一粒ずつ続けてこぼれ落ちる様子。② ひとつかたまりになっていたものが水分を失って、ばらばらになる様子。

【言葉の候補】

A ほろほろ
B ぼろぼろ
C ぼろぼろ

【創作している俳句】

卒業に こぼれる涙

と

3 川口さんは、「卒業」をテーマに俳句を創作しています。次は、川口さんが【創作している俳句】とその俳句の□に入れる【言葉の候補】、川口さんが見ている【辞典の記述】です。あなたなら、【言葉の候補】の中のどの言葉を選びますか。A からCまでの中から一つ選び（【言葉の候補】の中のどの言葉を選んでいいか）【それを選んだ理由を、あとの条件1と条件2にしたがって書きなさい。】

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

【学習指導要領における領域・内容】

〔第2学年〕 B 書くこと

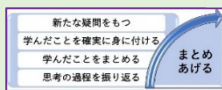
ウ 事実や事柄、意見や心情が相手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えたり、描写を工夫したりして書くこと。

【解答を導き出すために、子供に気付かせたいポイント】

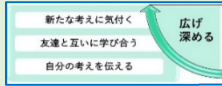
- ・複数の候補の言葉から、どのような意味に着目してその言葉を選んだかを、他の言葉の意味の意味との違いが分かるように書くこと。
- ・選んだ言葉を用いることで、どのような情景や心情を表現できると考えたのかを、具体的に書くこと。

【授業改善例】

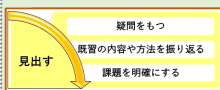
(4) 発表や短冊によって、友達のスピーチで分かったことや良い点を伝え合い、学習を振り返る。



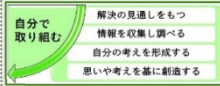
(3) 観点を基に、グループで解説文の下書きを読み合い、交流し合う。

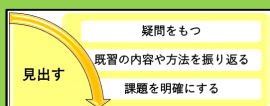


(1) 言葉を選んで俳句を作り、自分の考えが読み手に効果的に伝わるように解説文を書くという課題を理解し、学習の見通しをもつ。



(2) 自分が選んだ言葉を用いることで、情景や心情が効果的に表現できるように、他の言葉を選んだときとの違いが分かるように解説文の下書きを書く。





言葉を選んで俳句を作り、自分の考えが読み手に効果的に伝わるように解説文を書くという課題を理解し、学習の見通しをもつ。

予想される子供の疑問:どのように言葉を選ぶか、どのように解説文をかけばよいのか。
整理し、焦点化した疑問:自分の考えを読み手に効果的に伝えるには、どうしたらよいか。

→ 〈課題〉課題を理解し、学習の見通しをもつ。

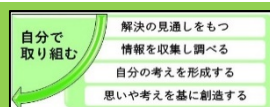
第1時

(1) 学習の見通しをもつ。(句会をする、俳句展を行うなど)



教師

俳句に入れる言葉を選び俳句を完成させ、解説文を書いてもらいます。完成した俳句と解説文は、多くの生徒が読めるように教室の壁などに掲示します。



自分が選んだ言葉を用いることで、情景や心情が効果的に表現できるように、他の言葉を選んだときとの違いが分かるように解説文の下書きを書く。

子供の「見方・考え方」:情景や心情を効果的に表現することができる。

課題解決の視点や方法:候補の言葉にはどのような意味があるかを捉える。

→ 〈視点〉自分が選んだ言葉を用いたときと、他の言葉を選んだときとの違いが分かるようにする。

(2) 言葉の候補には、それぞれどのような意味があるか調べる。

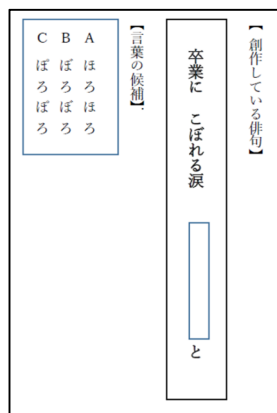
(3) 自分が選んだ言葉で、俳句の解説文の下書きを書く。



教師

自分が選んだ言葉を用いたときと、他の言葉を選んだときの違いが分かるように書きましょう。

俳句は、学級の生徒が作ったものを複数用意するなどの工夫をすると、生徒の興味をひきやすくなります。

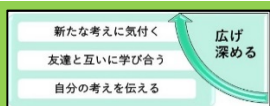


【辞典の記述】

ほろほろ ① 涙や葉・花びらといった小さく軽いものが、音もなく続けてこぼれ落ちる様子。② 山鳥・雉・鳩といった鳥の鳴く声。

ぼろぼろ ① 大粒の涙をこぼす様子。かたまりや粒などが、続けてこぼれ落ちたり崩れたりする様子。② 物がひどく破れたり崩れたりしている様子。

ぼろぼろ ① 涙や小さい粒状のものなどが、一粒ずつ続けてこぼれ落ちる様子。② ひとかたまりになつていたものが水分を失って、ばらばらになる様子。



観点を基に、グループで解説文の下書きを読み合い、交流し合う。

主体的に学び合う姿:解説文をグループで読み合い、よい点や改善点について意見交換する。

考えをつなぐ手立て:読み合う際の観点を示し、話し合いが深まるようにする。

→ 〈展開〉読み合う際の観点を基に、よい点や改善点についてグループで交流し合う。

第2時

(4) グループで読み合い、それぞれのよい点や改善点について交流し合う。



教師

自分が選んだ言葉を用いることで情景や心情を効果的に表現できたか、他の言葉を選んだときとの違いが分かるか、読み合ってみましょう。

読み合う際の観点の例

- ア 自分が選んだ言葉を用いることで情景や心情を効果的に表現できたか。
- イ 他の言葉を選んだときとの違いが分かるか。

【Xさんの解説文の下書きの例】

A 私は「ぼろぼろ」の「小さくて軽いものが、音もなく続けてこぼれ落ちる。」という意味に注目しました。「ぼろぼろ」には、「大粒の涙をこぼす」、「ぼろぼろ」には「一粒ずつ続けてこぼれ落ちる」などの意味がありますが、私は、卒業式の厳かな雰囲気の中で静かに涙を流す様子を表現したいので、「音もなく」という意味がある「ぼろぼろ」を選びました。

選んだ言葉を使うことで、Xさんの考える卒業式の情景や心情を読む人に伝わるようになっています。



他の言葉の意味との違いが分かるように書いているので、説得力があると思います。



【Yさんの解説文の下書きの例】

C 私は「ぼろぼろ」を選びます。なぜなら、一粒ずつ続けてこぼれ落ちる様子を表す言葉だからです。「ぼろぼろ」には「音もなく続けてこぼれ落ちる」、「ぼろぼろ」には「大粒の涙をこぼす」などの意味がありますが、「一粒ずつ」という意味は、「ぼろぼろ」にしかありません。

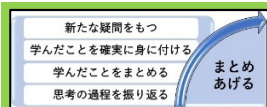
他の言葉の意味を詳しく書いているので、選んだ言葉との意味の違いがよく分かるところがいいですね。



選んだ言葉によって、どのような情景や心情を表現したかったのかについて、書くことができるともっとよい解説文になると思います。



観点を明確にしないと、誤字・脱字を指摘し合うだけになってしまいます。観点に沿って話し合いができるように、日頃から指導しておく必要があります。



発表や短冊によって、友達のスピーチで分かったことや良い点を伝え合い、学習を振り返る。

自分の思考の振り返り: 交流から得られたことを踏まえ、解説文を書く。

考えを整理させる視点: 読み合う際の観点や、交流で得られたことを基に解説文が書けたか。



〈整理〉文章を書くときは、自分の考えが読み手に効果的に伝わるように意識する。

第3時

(5) 交流から得られたことを踏まえ、解説文を完成させる。

【Yさんの解説文の下書き】を書き直した例 ※赤字は、追加した文。

自分の言葉で学習のまとめを書く

C 私は「ぼろぼろ」を選びます。なぜなら、一粒ずつ続けてこぼれ落ちる様子を表す言葉だからです。「ぼろぼろ」には「音もなく続けてこぼれ落ちる」、「ぼろぼろ」には「大粒の涙をこぼす」などの意味がありますが、「一粒ずつ」という意味は、「ぼろぼろ」にしかありません。私は、中学校生活のたくさんの出来事の一つずつ思い出している卒業生の心情を、「ぼろぼろ」という言葉を使ってこの俳句で表現したいと考えました。

自分の考えが読み手に効果的に伝わるかを、互いに交流して意見交換できるように、その観点を一人一人が把握できていることが大切です。また、交流から得られたことを、どのように生かした(または、なぜ採用しなかった)のかを意識しながら清書ができたかを考えさせましょう。

〈関連する場面〉

「伝え合う言葉 中学国語2」教育出版 近代の短歌 みちるべ
「国語2」光村図書 言葉を選ぼう

〈関連する問題〉

該当なし